

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

原発 物価高騰 コロナ対策 県民の命と暮らし守ろう 市内各地で党と後援会が訴え



全国で紹介された島根の活動

10月22日に記念の集いをオンラインで開催。全国で4千人が同時視聴、島根県でも松江、出雲、浜田など

新日本婦人の会(新婦人)は10月19日に創立60周年を迎えました。新婦人は平塚らいてう、岩崎ちひろ、島根県雲南市出身の帯刀貞代さんが「核戦争から女性

新婦人創立60周年 記念のつどい開催

と子どもの生命を守る」などの目的を掲げ思想、信条、政治的見解の違いを超えて全国的に統一された個人加盟の女性の組織として結成されました。その後女性の要求実現団体として「脱脂粉乳ではなく生の牛乳を」「子どもの医療費無料に」「女性の結婚退職制おかし

で視聴会が開催されました。集いでは、東日本大震災で被災者訪問、原発反対、児童保育や保育所づくりなど全国の運動の歴史が紹介され、島根県は「中海干拓淡水化事業の中止」「原発再稼働反対」の運動が紹介されました。

10月22日に記念の集いをオンラインで開催。全国で4千人が同時視聴、島根県でも松江、出雲、浜田など感想が語られました。



尾村県議 たちばな市議と後援会で宣伝

「物価高が深刻、せめて消費税を下げて」と多くの方から声が寄せられる。消費税引き下げ暮らし応援



尾村県議 舟木市議と後援会で宣伝

尾村県議、舟木市議は、17日には政府交渉を行い、県民、市民の切実な声を国の各庁に届ける予定です。県知事・県議選挙まであと五か月を切りました。各地域で党と後援会の取り組みが広がっています。

10月28日、尾村としなり県議、たちばなふみ市議が、29日には尾村県議、舟木けんじ市議が後援会の皆さんと一緒に街頭宣伝しました。

コロナ対策や物価高騰に何もできない、自民党・岸田政権を変えよう」「島根・松江から共同の力で政治を変えよう」と訴えました。県議会では決算審議の最中であり、コロナ第8波とインフルエンザの同時流行への備えについて「政府は発熱外来に基礎疾患のある人や妊婦のみ受診させ、その他の方は病院にもかかれない計画は問題だ。安心して病院にかかれる体制を」と力をこめました。

を」「子育て応援へ給食費負担軽減を」と全国の取組と松江市の対応を報告しました。舟木市議は、教員の働き方の問題を9月議会でも取り上げたことを紹介。「教員をふやして子どもの学びの保障を。軍事費ではなく教育予算をふやそう」と訴えました。



市の担当課と懇談する 社保協の役員ら8名と市議団

身体障がい者へのタクシー補助について、参加者から「週3回の透析通院で年70万円超かかる方も」「補助の増額と利用目的の拡大を」と要望が出されました。担当課は「福祉医療対象者全員へアンケートを実施し、現在集計中。要望を分析して制度の見直しの是非や内容について検討したい」と回答しました。舟木けんじ、たちばなふみ両市議が同席しました。

松江市社会福祉協議会(石田忍会長)は10月27日、社会保障の充実を求め松江市と懇談しました。この懇談は2月に提出した要望書(新型コロナウイルスや介護予防、生活困窮世帯への灯油代助成など8項目)の回答を受け、内3項目について直接要望を届けるものです。市から介護保険課、障がい者福祉課、学校教育課が出席しました。就学援助制度充実に関し、クラブ活動・PTA会費・生徒会費を含める要望に対し、

憲法を生かし、くらしと命を守る政治を

日本共産党 演説会

12/18(日) 10:00~

いのちまもる 政治を今こそ

松江テルサホール

日本共産党 参議院議員/党書記局長

小池あきら

わたくしもお話します

日本共産党 県議会議員

尾村としなり